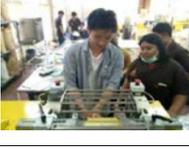


平成30年度短期海外研修プログラム実施実績

No.	類型	プログラム名	国名	プログラム写真	派遣/連携先機関	期間	日数	プログラム概要	対象	参加人数	単位付与
1	語学研修型	ハンブルク大学ドイツ語サマースクール	ドイツ		ハンブルク大学	8/1-9/1	32	全国から集まる日本人学生約60名、韓国・台湾人学生約40名と1か月間生活を共にし、ネイティブ講師によるレベル別のドイツ語講座、ドイツ文化体験、歴史的遺産等へのフィールドトリップに参加する。語学力や異文化理解力を身に付け、将来的に地域の国際交流に貢献できる人材やグローバルな環境で活躍できる人材を育成する。	全学 (ドイツ語学習歴が1年以上ある学生が望ましい)	5	2
2		語学研修(英語)	ニュージーランド		ワイカト大学	8/11-9/2	23	大学附属の語学学校に所属し、午前中のGeneral Englishに加え、週2回は午後IELTS Preparation、EAP skills for university studies、Focus on reading and writingなどの選択クラスを受講する。週23時間の集中講座やホームステイなど、短期間でも集中的に英語力の強化が可能な環境に一定期間身を置くことで、確実に語学力の向上を目指す。	全学	2	2
3		語学研修(英語)	オーストラリア		サザンクロス大学	8/11-9/9	30	大学附属の語学学校に所属し、バイロンベイへの訪問やサーフィン体験、地元学校での現地学生との交流を通して、オーストラリアの社会・文化などを学び、実際に体験しながら英語で異文化について学ぶ。滞在中はホームステイを行い、習得した英語を日々の実践により研鑽し、コミュニケーション能力の向上を図る。	全学	7	2
4		語学研修(英語)	アメリカ		ポートランド州立大学(夏季)	8/16-9/9	25	大学附属の語学学校に所属し、午前中は英会話や発音、ボキャブラリーなど日本人の苦手な点に特化した授業、午後は「ポートランドカルチャー」「ボランティアリズム」「ホスピタリティ・マネジメント」の3テーマから選択し、テーマに基づく課外活動に参加する。滞在中はホームステイを行い、習得した英語を日々の実践により研鑽し、コミュニケーション能力の向上を図る。	全学	9	2
5		はじめてのタイ語研修プログラム	タイ		スィーパトナム大学	9/5-9/20	16	午前中はスィーパトナム大学でタイ人講師による初級タイ語やタイ文化の授業を受講し、挨拶、文化、時間・数、商品と買い物等について、シチュエーション別にタイ語を習得する。午後はテーマ、調査先、調査方法を各自で設定して海外社会調査(基礎)を行い、レポートを作成する。これらの活動や現地学生との交流を通して、コミュニケーション力、異文化理解力に加え、日本人としてのアイデンティティを養う。	全学	32	2
6		語学研修(英語)	オーストラリア		ディーキン大学(3週間)	2/9-3/3	23	大学附属の語学学校に所属し、文法、語彙、発音、流暢さ、コミュニケーションスキル、日常の様々な状況で使える実践的英語など、4技能のスキルを総合的に伸ばすための授業に参加する。一人一人の語学レベルに合った9段階のクラスに分かれ、週25時間(自習時間含む)、平均15名の少人数制のインターナショナルクラスで学び、滞在中はホームステイを通して、短期間で集中的な英語力の向上を図る。	全学	17	2
7		語学研修(英語)	オーストラリア		ディーキン大学(5週間)	2/9-3/17	37	大学附属の語学学校に所属し、文法、語彙、発音、流暢さ、コミュニケーションスキル、日常の様々な状況で使える実践的英語など、4技能のスキルを総合的に伸ばすための授業に参加する。一人一人の語学レベルに合った9段階のクラスに分かれ、週25時間(自習時間含む)、平均15名の少人数制のインターナショナルクラスで学び、滞在中はホームステイを通して、短期間で集中的な英語力の向上を図る。	全学	4	2
8		語学研修(英語)	アメリカ		ポートランド州立大学(春季)	2/14-3/10	25	大学附属の語学学校に所属し、午前中は英会話や発音、ボキャブラリーなど日本人の苦手な点に特化した授業、午後は「ポートランドカルチャー」「ボランティアリズム」「ホスピタリティ・マネジメント」の3テーマから選択し、テーマに基づく課外活動に参加する。滞在中はホームステイを行い、習得した英語を日々の実践により研鑽し、コミュニケーション能力の向上を図る。	全学	1	2
9	語学研修型 文化体験・交流型	Summer Enrichment Programme	マレーシア		マラヤ大学(夏季)	8/5-8/26	22	マラヤ大学が主に日本の学術交流協定校の学生を対象に実施している短期研修。レベル別の英語研修や文化体験、フィールドトリップ、現地学生との交流イベント等への参加を通して、英語力を総合的に強化するとともに、マレーシアの文化・社会について英語で学ぶ。滞在中は現地学生パティと寝食を共にすることにより、両国の相互理解及びグローバル人材としての知識・教養を深める。	全学	4	2
10					マラヤ大学(春季)	2/24-3/16	21			7	
11	文化体験・交流型	2018 PKNU International Summer School	韓国		釜慶大学校	8/5-8/18	14	釜慶大学校が日本の学術交流協定校の学生を対象に実施しているサマースクール。午前中は韓国語・文化と国際関係の授業から選択、午後は韓国文化体験や釜山市近郊へのフィールドトリップに参加する。滞在中は日本語のできる韓国人学生がパティとしてサポートしてくれる。現地では、寮に滞在し、日韓学生の密な交流を通して、韓国文化・社会への理解及び両国の相互理解を深め、より広い視野を養う。	全学	1	1
12		2018 Korean Summer Session	韓国		東亜大学校	8/5-8/18	14	東亜大学校が日本の学術交流協定校の学生を対象に実施しているサマースクール。午前中は、レベル別の韓国語講座の受講、午後は、伝統音楽や韓国料理体験、歴史的遺産へのフィールドトリップ等を通して文化体験を行う。現地では、寮に滞在し、東亜大学校の学生パティや日韓学生グループメンバーとの密な交流を通して、韓国文化への理解を深める。	全学	1	1
13		国際産業社会調査プログラム	タイ		チャンカセーム・ラチャパット大学	8/16-8/31	16	日本人学生とタイ人学生が数名ずつでグループを組み、与えられたテーマに基づく産業フィールド調査活動や異文化研修を行う。フィールド調査活動は、複数のワークショップにより段階的に完成度を高め、グループで成果発表を行う。ビジネス日本語学科で学ぶタイ人学生との協働を通して、異文化コミュニケーション力、国際協調性や課題解決能力を養う。	全学	21	2
14		ブータンに学ぶ途上国の伝統文化とその維持への努力	ブータン		王立ブータン大学 シェラブツェカレッジ	3/16-3/26	11	豊かな自然の保護と伝統文化の維持のために、積極的に努力するブータンの現状を視察し、ブータンの特徴と課題への理解を深める。現地の大学教員・学生との交流を通して、国際協力を推進するために必要なマナーを身に付けるとともに、英語コミュニケーション能力を高める。ブータンの伝統文化は日本との類似点も多いため、日本とアジアへの理解を新たな視点から見直す機会とする。	全学	2	2

No.	類型	プログラム名	国名	プログラム写真	派遣/連携先機関	期間	日数	プログラム概要	対象	参加人数	単位付与
15	グローバル教養型	海外短期研修プログラム	タイ		ラジャマンガラ工科大学	8/19-9/2	15	工学部・工学研究科生向けの短期研修。初心者向けタイ語講座やタイ文化研修及びフィールドトリップ、工学系研究室の見学、現地企業訪問等を通して、工学系人材としてグローバル社会で活躍するための基礎となる知識・教養を身につけるとともに、現地の学生や教職員と主に英語で交流することにより、英語での発信力や異文化理解力の向上を目指す。	工学部 U3以上 (他学年・他学部は要相談)	3	2
16		オックスフォード大学夏季英語学研修プログラム	イギリス		オックスフォード大学	9/1-9/16	16	三重大学と奈良県立大学との合同プログラム。ハートフォードカレッジにて、英国の歴史や文化、政治経済など幅広く学ぶ。プレナム宮殿やコッツウォルズへの訪問を通して英国の歴史を体感する。グループ毎にテーマを設定し、英語でプレゼンテーションを行うことで、英語コミュニケーション能力及びプレゼンテーションスキルの向上を目指す。現地では、大学寮に滞在し、現地学生のパーティと密な交流を通して、グローバル人材としての教養を養う。	全学	13	2
17		日本とタイのグローバル人材育成に関する調査と比較研究	タイ		アサンブション大学	2/10-2/23	14	日本とASEAN諸国のグローバル人材育成教育について比較調査・研究を行う。課題探究プロジェクトの一環として実施する。タイでは、「ASEANの経済統合」のテーマのもと、高校、大学及び現地企業等を訪問し、同テーマが国際教育にもたらす影響を多角的に捉え調査・研究、分析することを通して、日本が育成を進める「グローバル人材」やその取組について再考し、現状理解及び課題認識を深める。	国際地域学部 U1 (平成30年度後期 「課題探究プロジェクト 基礎B」科目履修生)	20	2
18		グローバル産業人材育成プログラム	タイ		タマサート大学	2/13-2/28	16	タイの文化や社会背景について学ぶ講義、フィールドワークへの参加や、タマサート大学生とパーティを組み食事を共にすることを通して、異文化適応能力を養う。また、パーティの協力のもと、日本企業が多く進出するタイの産業経済に関するテーマ調査を行うことで、将来グローバル経済社会で活躍するための広い視野と能力を身に付ける。	全学	22	2
19		英語教育サブコース・国際文化系・言語コミュニケーション系海外研修プロジェクト	カナダ		オカナガン大学	2/14-3/28	43	語学研修(ESL授業)による実用的な英語コミュニケーション能力の鍛錬に加え、プロジェクト・ワークや派遣先地域の文化施設等への訪問、先住民の文化体験、現地の人々との交流等を通して、異文化に対する理解や柔軟な態度・思考を身につけるとともに、異文化体験を通じ、自己や自文化に対する新たな視点を獲得する。	教育学部 U1, U2	15	2
20	専門分野型	アジアスチールブリッジコンペティション2018への参加を通じたグローバルイマジニアの育成	タイ		シーナカリンウィロート大学	5/28-6/3	7	学生自らがオリジナルの橋梁を設計・製作し、アジアブリッジコンペティションにて英語でプレゼンテーションを行う。架設速度、構造パフォーマンス、美観、プレゼンテーション力など、総合的な技術力の高さをアジア各国からの大学生チームと競う中で、創造性の育成、問題解決能力の向上、国際的な交流を図る。また、テクニカルツアーへの参加を通して、台湾の地震に対する対策や姿勢、ダムなどの土木構造物についても学ぶ機会を持つ。	全学	5	1
21		スタンフォードVIA留学プログラム Medical Exchange and Discovery (MED)	アメリカ		①スタンフォード大学 ②カリフォルニア大学サンフランシスコ校	8/5-8/25	21	スタンフォード大学、及びUCSFの附属病院、老人介護施設、児童ホスピス施設、同性愛者を対象としたクリニック、学生が運営するフリークリニックや各種研究施設などを訪問し、スタンフォード大学やUCSFの医学生とともに様々な視点から米国医療を様々な視点から学ぶ。過去のプログラムでは、臨床を目的とした医学英語を体系的に学ぶセッションが行われた他、TED Talksでも有名なAbraham Verghese先生率いるStanford Medicine 25のスタッフによる身体診察のセッションも実施された。	医学部・医学科	3	2
22		IFMSA Research 交換留学プログラム (スロベニア)	スロベニア		リュブリャナ大学	8/15-9/30	47	現地大学の研究室にて約1か月研究を行う。派遣先大学において、附属病院や研究施設見学や診療見学等を行い、日本とは異なる医療現場の実態について理解を深める。また、研究面においても、日本及び海外の異なる見識を交えた意見交換により、新知見を得るとともに、双方の特長を互いに認め合い、学び合う有効な異文化・医学交流を図る。それにより、コミュニケーションならびに異文化理解力を養うとともに、今後の学習においても多角的に研究を行う素養を身に付けることができる。	医学部・医学科 (IFMSAより交換留学の許可を得た医学科生)	1	2
23		北米医療見学プログラム	アメリカ		①スタンフォード大学、エイズ研究センター ②BC チルドレンズ病院	9/3-9/21	19	BC Children's Hospitalでカナダにおける医療の現状を学び、医学研究、臨床医学を学ぶことで、将来学生がグローバルな社会のもとで自身の語学力や医学を最大限発揮し、世界で活躍できるようになるための第一歩となるチャレンジの場としての経験を得る。また、Stanford Universityにおいて、先端的な大学における医療やその他の研究などに関する見学、講義の聴講などを行う。	医学部・医学科 U4	2	2
24		チェンマイ大学との医学研修交流	タイ		チェンマイ大学	9/10-9/14	5	チェンマイ大学及び大学附属病院において、授業の聴講や病院見学、医学実習を行う。また、大学関連医療機関への見学及び医療研修への参加を通して、熱帯地域の特異な感染症や疫学について実地で見聞を深め、現地の医療事情について理解を深める。また、プログラムの計画・実施を主体的に行うことにより、自主性や問題解決能力を養成する。	医学部・医学科	6	1
25		英国の医療と高度実践看護師研修	イギリス		①バーミンガム市立大学 ②レスター大学附属グレンフィールド病院 ③コベントリー&ワーウィック大学病院 ④セントクリストファーズホスピス	9/16-9/26	11	大学附属病院やホスピスでの見学実習や授業参加により、それぞれの領域における専門的医療・看護の実践について学ぶとともに、現地学生との交流を通して学習に対する姿勢や意欲に触れ、今後のモチベーション向上に繋げる。特に英国と日本における健康保険制度と医療サービスの違いを理解し、各国の制度及びシステムにおける最高・最善の医療の提供について考察できることを目指す。	医学部・看護学科	7	1
26		ロシア・イルクーツク州立医科大学 医学部派遣	ロシア		イルクーツク州立医科大学	9/17-9/28	12	本学以上に症例数の多い大学病院で脳神経外科の手術を中心に研修する。午前中は脳神経外科外来見学、午後は手術室で手術を見学し、術法についての詳細な知識を身に付ける。また、ロシア語基礎講座(大学内講義)や文化的な研修も行う。主に脊髄・脊髄外科に関する知識・技能を習得するとともに、ロシアの医療教育システムならびに地域医療システムを学ぶ。また、非英語圏で英語を使用し、現地及び他国からの医学生、医師と交流し、共産国という異文化の中で日本の位置付けを理解する。	医学部・医学科 U3	3	1
27		地域医療・家庭医療海外研修プログラム	アメリカ		オレゴン健康科学大学	2/18-3/1	12	公益社団法人地域医療振興協会が国際交流事業として実施するオレゴン健康科学大学家庭医療学講座における研修プログラム。地域医療・家庭医療を志す医学生への国際交流を推進し、地域医療・家庭医療の先進的な現場からその魅力と誇りを体感することにより、地域医療を担う意思の確保及び質の向上に寄与することを目的としている。	医学部・医学科 U5, U6	1	2
28	大学院教育プログラムースプリングプログラム	中国		上海理工大学	3/7-3/20	14	本学大学院工学研究科への進学を予定する工学部4年生及び工学研究科生等を対象とした、大学院における国際性豊かな高度技術者育成のための導入教育。初級中国語・中国文化講座、英語・日本語による工学系専門講義、海外企業経営・技術論講義、海外インターンシップ等への参加を通して、語学力と異文化理解力の向上ならびに実践的・国際的な思考力の育成を目指す。	工学部U4以上 交換留学プログラムA 修了生 (本学大学院工学研究科進学予定者)	4	6	

No.	類型	プログラム名	国名	プログラム写真	派遣/連携先機関	期間	日数	プログラム概要	対象	参加人数	単位付与
29	実践・ インターンシップ型	オランダ短期インターンシップ	オランダ		フィリップス・リサーチ・ヨーロッパ社	4/15-10/22	191	PRE社との共同研究テーマについて、現地の研究者とともに基礎的研究の調査と実験を行うことにより、高齢者の運転時の視覚特性を解明し、高齢者に適した道路・交通照明システムを開発することを目的とする。その目標達成を通じて、科学を实践に橋渡しする研究プロセスを体得する。また、世界の人々と協働してグローバル社会に貢献できる専門的知識・能力について、国や文化を超えて高度な課題に立ち向かい、専門的知識や能力を活かして問題改善・解決に向けた提案ができるようになることを目指す。	工学研究科 M1以上	1	1
30		ザンビア地域医療参加型臨床実習プログラム	ザンビア共和国		ジンバ・ミッション・ホスピタル	5/14-6/15	33	実習を通して、現地の地域医療に求められていること、限られた医療資源の中でされている工夫、マラリアやHIVなど日本では診る機会が少ない疾患について学び、そうした疾患が社会に与える影響について理解する。また、身体診察や採血、点滴などの基本手技を習得し、経膈分娩や帝王切開手術などの介助の方法を学ぶ。さらに、現地学生との交流を図り、日本及び海外の異なる見識を交えた意見交換を通じて医療・保健についてグローバルな視点を養う。	医学部・医学科	3	2
31		インドネシアにおける熱帯医学・微生物学研究のフロンティア	インドネシア		アイルラング大学	8/14-9/17	35	病原性微生物の最先端の研究(高病原性鳥インフルエンザウイルス、新型の肝炎ウイルス、下痢ウイルスなど)に参加するとともに、日本では経験できない熱帯ならではの医療の実際を学ぶ。また現地はもともと世界各国から集まる同世代の医学生と交流し、国際的な意識の向上を図る。	医学部・医学科 〔「生体と微生物」履修済である者〕	1	2
32		Academic Internship in NCSU	アメリカ		ノースカロライナ州立大学	8/26-10/31	67	米国において最も繊維の研究・教育に注力しているノースカロライナ州立大学の研究室に滞在し、研究生活を体験する。また、先方の研究室の学生のサポートを受けながら課題実験に取り組みとともに自身の修士論文研究の内容について説明する機会を持つ。以上の経験を通じて、グローバル人材として必要とされる専門知識ならびにコミュニケーション能力を含むジェネリックスキルを高めることを目的とする。	工学研究科 M1 (受入教育機関に関連する卒業研究を行った経験者)	3	2
33		フィンドレー大学短期教育研修	アメリカ		フィンドレー大学	8/27-9/14	19	近隣の公立学校やフィンドレー市内の日本語補習校で授業参観・実習等の教育実践活動を行うと共に、フィンドレー大学の授業にも出席する。学校体験については、フィンドレー大学の教員養成プログラムの中で実施されている学校インターンシップのノウハウを生かした取り組みを行うことで、外国における教育の現実について理解し、自国の教育を相対化することを目指す。また、日本の文化について新たな視点で見直し、外国で協働することを通して、表現力の向上も目指す。	教育地域科学部 教育学課程 (学校教育課程)	6	2
34		原子力人材の国際性向上事業	イタリア		ミラノ工科大学	9/17-12/15	90	イタリア最大の工科大学であるミラノ工科大学において、講義や研究炉の見学を通して、小型モジュール炉(SMR)の主要な種類、現在の状況、設計、機能特性、長所、課題についての理解を深める。また、海外での研究活動を通じて、英語でのコミュニケーション能力、ディスカッション能力の向上及び国際的な研究者社会での流儀、文化、常識の習得を目指す。	工学研究科 (原子力・エネルギー安全工学専攻、 学業成績が優秀で人物等に優れている者)	1	2
35		繊維系大学院連合 繊維・ファイバー工学分野の海外インターンシップ	タイ		ラジャマンガラ工科大学	11/18-12/9	22	ラジャマンガラ工科大学において、研究室で研究指導・教育指導を受けることにより、繊維の基礎的知識から応用知識までを習得するとともに、自身の専門に偏らず、グローバルで広範な知識・技術への理解を深める。また、国際感覚を身につけさせ、繊維・ファイバー工学分野で国内外でグローバルに活躍できる人材を育成し、英語でのコミュニケーション能力の向上及びグローバルな視野の習得を目指す。	工学研究科 M1, M2	2	2
36		原子力人材の国際性向上事業	オランダ		デルフト工科大学	11/30-2/25	88	デルフト工科大学において、原子炉物理学の数値解析を専門とする研究室に所属し、コンピュータによる放射線輸送方程式の有限要素解析手法について学びつつ、作成中の計算コードの精度向上、計算方法の改良を目的とした研究を行う。設定した研究テーマの専門知識の習得と理論について理解を深めるとともに、英語によるコミュニケーション能力とディスカッション能力の向上を目指し、問題改善と解決への提案を行う能力を涵養する。	工学研究科 (原子力・エネルギー安全工学専攻、 学業成績が優秀で人物等に優れている者)	1	2
37	NIE-UF Student Exchange Programme	シンガポール		南洋理工大学国立教育学院	12/26-1/26	32	南洋理工大学国立教育学院において、4週間に渡って学校現場に身を置き、授業や学級の参観とTAをそれぞれ2週間ずつ行うことにより、シンガポールの教育システムや現状について学ぶ。現地の学校を拠点にインターンシップを行うことで、これまで国内で学んできた授業づくりや学級づくりについて改めて捉え直し、国際的な視野にたつて、これから求められる学習や教育の在り方について理解を深めることを目的とする。	連合教職開発研究科 教職開発専攻	1	2	
38	カンボジアでの臨床実習、臨床研究、国際学会参加プログラム	カンボジア		ブレアンドン国立病院	3/17-3/24	8	日本の耳鼻咽喉科の特に鼻副鼻腔手術をカンボジアの医師に指導・教育する国際共同活動に参加する。専門分野を高めること、そしてそれを伝えることを実際の国際教育の場で経験し、今後のキャリアの積み上げについての具体的なイメージを得る。また、国際的な基準に基づいた臨床研究を行うにあたり、その準備、実施、解析を学ぶ。	医学部・医学科 U5	1	2	

No.	類型	プログラム名	国名	プログラム写真	派遣/連携先機関	期間	日数	プログラム概要	対象	参加人数	単位付与
39	研究・発表型	フォトニクス分野に関する国際学会または学生支部大会への参加及び大学への訪問を通じた教育研究交流	アメリカ		スタンフォード大学	5/12-5/21	10	光工学やフォトニクス分野の世界的権威である国際光工学会の学生大会へ参加し、リーダーシップや組織運営などに関する講演を聴講するほか、他大学の学生とグループ討論や発表を行う。また、関連する学生支部のある大学を訪問し、支部相互の紹介や運営に関する相談、研究紹介などの教育研究交流を行うことにより、グループワーキング力や交渉力、実行力を身に付け、高度専門職業人としての専門性や創造性を高める。	全学 (フォトニクス分野を専門とする者)	2	2
40			アメリカ		カリフォルニア大学	8/17-8/30	14				
41		韓国研究・発表型プログラム	韓国		慶北大学校	8/27-9/6	11	国際学会(The ACEM18 International Conference)で研究成果の発表を行い、慶北大学校での学術交流会において、本学学生と慶北大学校の学生が英語による研究報告を行う。学生の英語力の向上を企図しつつ、研究交流を図り、研究内容を深化させることを目的としている。また、研究関連韓国企業を訪問・交流することで、専門的知識・能力を高める教育効果も期待できる。	工学 U4~M2 (材料開発工学専攻)	3	2
42		異なる研究分野間でのグローバル人材育成	中国		天津工業大学	9/2-9/11	10	バイオデバイス、ナノ材料、細胞工学など、敢えて自分の専門とは異なる分野の研究室に滞在し、現地学生とともに実験やディスカッションを行う。日々の研究活動や発表会への参加を通じて、論理的に思考し、発表するプロセスについて学ぶ。また、異なる研究分野の知識・背景を持つ現地学生との議論を通して、自分自身の研究への理解を深め、その後の研究活動に対するモチベーションの向上に繋げる。	工学部 U4以上 (工・薬・材料化学)	2	2
43			台湾		①国立成功大学 ②国立中央大学	9/2-9/15	14			6	2
44			マレーシア		モナシ大学サンウェイ校	9/3-9/12	10			3	2
45			中国		浙江理工大学	9/14-9/23	10			2	2
46		フォトニクス分野に関する国際学会または学生支部大会への参加及び大学への訪問を通じた教育研究交流	アメリカ		ジョージ・ワシントン大学	9/14-9/24	11	光工学やフォトニクス分野の世界的権威である国際光工学会の学生大会へ参加し、リーダーシップや組織運営などに関する講演を聴講するほか、他大学の学生とグループ討論や発表を行う。また、関連する学生支部のある大学を訪問し、支部相互の紹介や運営に関する相談、研究紹介などの教育研究交流を行うことにより、グループワーキング力や交渉力、実行力を身に付け、高度専門職業人としての専門性や創造性を高める。	全学部、全専攻のフォトニクス分野を専門とする学生	4	2
47		化学分野におけるグローバル人材育成のためのプログラム	アメリカ		ボウリング・グリーン州立大学	10/8-10/25	18	ボーリング・グリーン州立大学において、化学分野における研究発表を行い、グローバル社会で活躍するために必要とされる英語でのコミュニケーション能力の向上及び日本とアメリカ間の異文化理解を深める。また、化学分野において、世界トップレベルであるアメリカでの研究の進め方や発表方法などを学び、斬新なアイデアの創出の助けとする。さらに、本学とアメリカの大学との化学分野における研究・人材育成の関係構築を目指す。	工学	4	2
48		西安オータムプログラム	中国		西安理工大学	11/1-11/10	10	西安理工大学にて開催される修士学生向けの研究課題中間報告会にて、自己の研究を英語で発表することで、実践的な英語力とプレゼンテーション力を習得し、現地学生の研究や研究に対する姿勢を知る機会とする。また、初級漢語や中国事情等の講義、文化施設や現地企業等へのフィールドトリップを通して、中国の歴史・文化にも触れ、異文化理解を深める。	工学 U4,M1,M2	11	2
49	国立台湾科技大学との視覚研究に関する研修交流	台湾		国立台湾科技大学	11/11-11/16	6	台湾の研究者と学生に対して、視覚研究に関するプレゼンテーションを行い、英語で討議をする。同時に、これまで日本語を用いて修得した専門知識を、台湾の最先端の専門技術に触れることにより、英語を用いて再修得する。国立台湾科技大学において、研究セミナー及び実験設備視察を行い、「専門分野における知識・能力向上のため日々努力し、学会での発表や共同研究など、強みを活かした活動に積極的に携わることができるようになることを目的とする。	工学 U4~M2 (建築建設工)	4	1	
50	テラヘルツ波について学ぶ実践的教育研究研修プログラム	フィリピン		フィリピン大学物理学研究所	11/20-12/19	30	フィリピン大学物理学研究所にて受入先教員・研究者の指導のもと、課題研究に資する共同研究、共同実験を計画、実施する。また、受入れ先教員の集中講義や留学生向けの短期英語コースを受講し、最終的には課題研究成果発表報告を行う。フィリピン国際研究所やデラ・サール大学理学部を訪問し、現地の教員・学生との交流を通して日本の大学と海外(東南アジア)の大学との教育研究環境、学生の意識、文化の違いを学び、国際感覚を身に付ける。国際的に活躍できるエンジニアとなるための基礎能力、素養を養成する。	工学研究科 M1以上 (物理・電気、一定レベルの英語力を有する者)	2	2	